

グループ名	■2つの報告に対する感想	■住民の健康増進のため、連携によって可能になる事業、取り組んでみたい事業	■具体的な連携構築のプロセスと、そのために必要なこと		
			連携する部署	連携する内容	そのために整備すべきこと
A	<ul style="list-style-type: none"> ・連携は重要ではあるがタイミングが難しい。常時から連携していくことが大切だがなかなか難しい。 ・連携は重要課題である。相談に対してのパターン化(連携の方法)や個々のセンスも大切ではないか。こをみかくことが必要。 ・現在は完全に個人レベルで対応している。連携は大切。単独での相談終了はキケン。 ・非常時の監視員の役割りはどんなものか。長年の経験などから判断できることは多く、問題点が見えてくる。 ・長年監視員をやっているでもなかなか難しい。精神への対応は保健所との連携もなかなか忙しくて頼みにくい。 ・連携は大事だがスキルUPの手段が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が集まっている場での講習など。 ・感染症部門の連携、情報共有(現在も実施中)。 ・イヌ、ネコ、多頭飼育の際の福祉部門との連携。 ・福祉部門の連携、情報共有。 ・建築確認申請時における事前図面指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築設計分野一建築確認申請部門。 ・環境関係分野(井戸設置)。 ・都市計画等分野。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築確認申請時などの事前指導で情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキル不足を補う勉強会や担当者レベルでの打合せ(説得力のある説明ができるように)。 ・想定される担当部署の確認。 ・要領などの整備。 ・核となる(中心となる)担当部署の決定。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・役所内に保健所があり、普段から他の課と話がしやすい環境にある。保健、介護、ゴミなど、自分たちで出来ないことを周りでおぎなっていくことが重要。 ・個人の結びつきがどれだけ持っているかが重要。「面倒なことを増やしたくない」と思うのも普通だし、他部署へ持っていく判断のタイミングをはかるのがむずかしいと思った。 ・こういう事例はどこにでもあると思った。地域のコミュニケーションが欠如している人が対象者になる場合が多い。たとえば、多頭飼育、虫、電波、薬剤)など。連携して確認することが大切で、それによって対応すべきことが決まり、また相手をいち早く把握できる。 ・どこまで連携するのは個人差があるので、組織や制度での連携を構築することが必要。職員による差が出ないように制度を構築するためにどうするか。 ・他部署へ持っていく判断やタイミングが難しい。 ・地域による差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レジオネラ症。 ・多頭飼育(いろんな人がからんでくる、解決しない)。 ・アタマジラミ(教育委員会、理美容、組合、保育担当課、学童担当課)。 ・トコジラミ(集団住宅)。ただし、本人が言いたくないときに、地域にどこまでいこうかが課題。行政が線引きしないとけない。 ・組織内で連携していれば、どこまで行っていかがわかる(情報の共有)。抽象的な話をしなくてすむ。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「より正しいものさしをつくるために」多方面からの情報を入手し、共有することで可能になる。これによって、対応(次の案件)がやりやすくなる。 ・どこが関係しているかを関係者が把握するためにも、最低連絡先の一覧を作成することが必要(連絡網)。 ・「連携することはマイナスよりもプラスの方が多い」ので、まずは連携してみる。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・連携は他職種に興味をもつことでうまくいく。 ・住民のニーズの変化に対応しなくてはならない。 ・建築確認は経験や知識の問題で難しい。 ・虫について同様の相談(糸くずを虫に間違える70代女性)があった。おかしな相談は精神にも話をする。他との連携もしたい。 ・精神障害から定期的に電話があるので、もっと精神保健と連携したい。 ・建築は事前の方がスムーズ。実際は難しいが、連絡会などで顔を合わせる。 ・こういった事例はまだ未経験なので、勉強になった。精神担当とは仲が良い。今以上の連携が必要かもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築分野。連携によって事後のもめ事がへる。 ・保健(精神)との連絡会。 ・ニーズに合わせてパンフレットの場所の工夫等を行いたい。保健所は普通の人あまり来ない。 ・衛生関係の関係団体を活用したい。 ・学童へのプール講座を他課と連携して実施した経験がある。 ・アレルギーは過去に3課でフォーラムを行っていた。 ・アタマジラミに関して保育園と連絡会をしたい。これによって事前に手をうつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、幼稚園、保育園 ・教育委員会、こども支援課、 ・理容組合、美容組合 	<ul style="list-style-type: none"> ・アタマジラミ、感染症についての流行状況、予備知識を啓発、講習を関係者に行う。 ・発生した場合の対応、連絡体制について事前相談。 ・理美容組合をととして、客、親への説明、基礎知識の啓発。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当課を通じて各園、各校へ連絡、理解を得る。 ・流行状況、発生数等の把握ができる体制を作っておく。 ・保健師さん等から定期的な情報収集。 ・連絡会の定期的な開催(責任者、連絡をとる人が顔をあわせる)。 ・出前講座等で子供や先生、保護者への啓発、理解。 ・理美容組合への講習会。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスの保健師とは連携がとれている。認知症の方が相談に来たときに対応をどうするか不安になった。 ・連携が全くないので、母子事業と連携して住環境の啓発を行いたい。 ・虫の相談事例があったとしても、精神保健の部署と物理的に遠いこともあり、現実的には難しい。 ・実際に虫の相談事例で最終的に精神保健のケースであることがわかり、連携が取れていないなと感じました。 ・連携の事例はない。営業六法に係る業務が中心となるので住まいと健康の業務に力をかけることができるかが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アタマジラミに係る啓発事業。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会。 ・保育園等部局。 ・理美容組合。 ・医療関係者。 	<ul style="list-style-type: none"> ①対処の方法について、役割分担。 ・保健所の役割…情報提供。 ・連携部署…正しい対処、親への説明。 ②事例の情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ①連携部署との連絡協議会の設置。 ②保育士、教師への研修会実施。 ③理美容組合への周知方法の検討。

E	<ul style="list-style-type: none"> ・虫の相談もある。どのような手法で連携にもっていくかが課題であると思う。 ・食品担当の2年間でも動物関係で似た事例があった。情報提供どまりのことが多い。日々の業務にのみこんで連携に難しさを感じている。 ・食品に関し、精神的に不安定な方から相談をうけたことはあるが連携をせずにおわってしまった。何が保健担当ができるかも知った。 ・虫の相談で長い時間かけて話をすることはあるが紹介の仕方が難しいと感じている。 ・保健所、県庁ともに各担当内でおわっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親学級等でのアレルギー事業等について。子どもが生まれる前の講習はあるが、生まれてからの教室も有意義と思う。(6か月検診などの機会をとらえて) ・プール条例(50t以上にかかる)小規模プールに基準がないので、保育士対象に講習をしており、その機会をとらえ、必要な知識を提供していきたい。 ・保健師を介して、市の保健センターと連携することも。 	<ul style="list-style-type: none"> ①保健予防担当部局。 ②保健センター。 ③各教育、保育機関。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職種間での情報、知識の共有、提供。 ②③啓発活動(アレルギー、住まい)。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)環境衛生監視員の中での、啓発活動に対する意識共有。 (2)関係部署、機関に対する啓発活動の働きかけ及び場所の調査。効果的な働きかけのルートの捜索(本庁経由が各保健所で行うのが有効か) (1)及び(2)を行うには啓発活動の意義をアピールできるかどうか重要である。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・他の部署との連携は迷っていて、環境衛生監視員だけで終わらせてしまうことが多い。 ・保健所とは、別で保健センターのみで行っている事業があり連携をとれない。 ・レジオネラの時に連携して業務を行ったことがある。 ・感染症の際は保健師から相談があり、答えて連携して業務を行うことはなかった。 ・保健師から相談を受けることはない、同じ階なのに。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かいせん。 ・ごみ屋敷の立ち入り(害虫の発生)。 ・孤独死(感染症の可能性)もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院(飲み薬、塗り薬)。 ・保健所の中の保健師、医師。 ・介護施設。 ・介護保険担当課。 ・町内会を担当している部署。 	<ul style="list-style-type: none"> ・診断した病院での投薬状況、治療状況の患者の情報。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供できるリーフレットを作成すること。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが何をできるかをこちらから出すこと 重要なのでは。 ・その場しのぎになっている。 ・全く同じような相談があるが、なかなか難しい。 ・自分だけでなく他のところに回す(連携)が重要だと感じた。 ・検査としては現場の状況がわかりにくいいため、連携が難しいと感ずることもある。 ・どの段階で福祉の方につなげばよいかわかりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護…相談のときから同席してもらう。 ・1歳半検診などの際、時間をもらって講習をし、衛生害虫の話をする。 ・感染症との連携(レジオネラ、美美容)。 ・これぐらいの検体がくると事前にわかっていると良い。 ・ノラ猫に関して地域との連携、獣医師会。 ・健康リビング(空気環境測定:川崎市1年に1回の勉強会をしている。) ・図面指導。 ・衛生害虫…ベストコントロール。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築部局 	<ul style="list-style-type: none"> ・空気環境測定・図面指導に関する知識、相談。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1程度の交流(定期的に顔を見合わせる)。 ・ワーキンググループの立上げ。 ・担当レベルで話す機会をつくる。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・よくある話だがそこにつなげるのが難しい(精神へ)。 ・どのタイミングで振るのか分からない。 ・福祉の方や保健師と合同で働くことはないため、今回の事例を参考にしたい。 ・今回のような事例への対応はわからなかったため参考にしたい。 ・保健所業務は初めてなので参考にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レジオネラの対応での対応はある(福祉)。 ・保健師との連携、フローチャートなどの作成。 ・基礎知識の周知。 ・納税等の市民の声が入りやすい部署からの市民の声の情報収集。 ・事前に保健師さんからの精神の方の情報提供を得る。 ・他職種の方から情報を集めたい。 ・ゴミ屋敷の解決。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境部、科学職、事務職、福祉(生保)。 ・清掃工場、法務担当課、清掃作業員、土木関係者(ため込んだものが倒れてきたなどの時)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ屋敷の問題解決。都内では空き家問題もある(他部署も嫌がる)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の相談窓口を作り情報を集約(窓口一本化)。 ・各部署が何ができるかを調べた上でマニュアルフローチャート等の作成。